

天神



個性輝くまちづくり

高齢者向けの 商店街づくり

松江市 天神町商店街





島根県松江市の天神町商店街（四二店舗、中村寿男理事長）は、毎月二五日、白湯天満宮の縁日に合わせて「天神市」を開いている。

「天神市」は、歩行者天国（午前一〇時から午後五時）になった天神さん通り（約二五〇m）に、それぞれの商店のワゴン、セールをはじめ、新鮮な野菜や海産物、フリーマーケットなどの露店がずらりと並ぶ。一〇時の開始を前に市を目当てに人々が集まり、開店早々から野菜や特産品を買い求めていく。

市は誰でも出店することができ、手作りごま豆腐や手作り菓子、手芸品を売る人、リサイクルショップを出す市民起業の出店が多くなった。

「丁稚の会」が伝統工芸品を売り、親子劇場「かぶと虫」の子どもたちもおもちゃを売る。この日は体験学習の一環として、地元小学校の子どもたちも露店の売り子を務めた。

松江市の商店街も、ご多分にもれず、市街地のドーナツ化現象や郊外型大型店の進出などによって衰退の一途をたどっている。商店街の周辺の高齢化が進み、天神町商店街のある白湯地区の高齢化率は二八%と、市内でも最も高い。



松江市は、こうした現状をふまえ、この白潟地区を高齢者にやさしい街づくりをコンセプトとしたモデル地区とし、「天神さん賑わい再生事業」として空き店舗を活用した高齢者交流施設の整備やワゴンセール事業等を提案した。

この提案を受けた若手経営者二五人で作る「街づくり委員会」は、昨年五月に東京・巣鴨のとげぬき地蔵を視察、そこでお参りを兼ねる信仰の対象が必要なことを知った。幸い地元「天神さん」と呼び親しまれている白潟天満宮があり、「天神さん」は学問の神様だからと、境内に頭のさえるぼけ封じの「おかげ天神」を造ることにした。

そして「天神さん」の門前市として「天神市」を昨年八月に立ち上げた。

空き店舗を活用した高齢者交流施設も昨年の七月に二か所できた。一つは「天神まめな館」。二階建ての空き店舗（延べ一八〇平方メートル）を改装して、一階には絵画や書などの展示スペース、二階はサークル活動などに使える多目的ホールと和室があり、曜日にもよるが、マッサージや健康相談も受けられる、いわばデイサービスセンター。八月二五日、天神市の一周年記念式典が「天神まめな館」



の前で行われた。

もう一つは「いっぷく亭」(延べ五九平方メートル)。バス停に隣接しており、バス待ちにも便利。さすが用意されており、番茶のサービスもある。

両施設とも「腰かけて休めて、トイレにもいける」と高齢者に好評だ。施設の管理運営は地元の天神町ふれあいプラザ運営協議会が市から委託を受け、二人のボランティアが常駐している。

島根大学で経済学を学ぶ学生も街に出て学べと、空き店舗を借りチャレンジショップ「おかげ庵」を経営する。この店は環境を考えてレジ袋が付かない。

昨年八月に建てた石像「おかげ天神」に熱心にお参りする高齢者も多く、車いすで市を楽しむ高齢者もいる。露店も増え「天神市」も少しずつ定着してきた。

縁日の日と平日の出入の落差は今なお大きいものの、中村理事長は「高齢者からいろいろな暮らしの相談を受け付け、商店や行政への取り次ぎなど幅広いサービスが提供できる窓口をつくり、天神町を高齢者の交流とネットワークのセンターにしたい」という。

■連絡先 天神町商店街

TEL 〇八五二一四一四〇三一